

## 平成 28 年度 第 4 回福岡県助産師会スキルアップ研修会実施報告 新生児フィジカルアセスメント 愛着形成への支援

講師：福岡新水巻病院周産期センター長 白川 嘉継 医師

新生児に携わる医療者には、新生児の異常サインを正確に判断する観察眼と、適切に対応する力が必要である。「何か変だなと？」という感性を持つこと。

そのためには今回のような講義内容を専門医より継続的に学んでいく重要性を感じた。

出生直後に一過性の低血糖を経験すると、成長後の学力に問題が生じる可能性があるとの解析結果が出ている。一般的に早期から血糖値の測定を行い介入が必要な早産児、低出生体重児、巨大児、仮死出生児、糖尿病母体児など低血糖リスクを有する場合はより慎重で迅速な対応が求められる。そして狭い産道を命がけで通過し生まれてきた児の呼吸状態はエベレストの山頂にたどり着いた時と同じくらいの低酸素状態であるとの表現が印象的であった。出生児の適切な蘇生を実施しなければ、その後の児の 80 年の人生が大きく変わってしまうというお言葉に、あらためて私達が携わる日々の仕事の重さと責任を痛感させられた。

2016 年 4 月 1 日、医療向けプラスチックチューブなどに使用されるプラスチック軟化剤が小児の注意欠如多動性障害 (ADHD) と関連することを示した研究が米国内分泌学会で報告された。知的発達には遅れはないものの学習面又は行動面で著しい困難を示す発達障害は近年増加しており農薬使用の増加も要因のひとつとして挙げられていた。何もかもが進歩しすぎているこの現代で人は少し生きづらくなっているのでしょうか。

白川先生は、人間どうしが社会的にうまく機能するためには信頼が不可欠であり、その大きな役割を果たす神経伝達物質がオキシトシンであり、オキシトシンを最大限に引き出せる存在こそが私達助産師であるという強いメッセージをのこされた。

親子関係の良好さが子供の言語機能や脳の発達に影響するということから、助産師として母児の愛着形成を支えるということはどういうことなのか、今回の講義を受け深く考えさせられた。



文責 教育委員 好村 朋子